

【学校部門】 優秀賞

■ 団体名 南アルプス市立芦安小学校（山梨県）

■ 企画名 「やまぶき祭り」っていうのにヤマブキがないのは、どうして？
～食害と動物との共存を考える～

■ 目的

- ・地域の田畑の動物の食害に対して関心を持つ。
- ・挿し木や株分けでヤマブキを増やせることを知る。
- ・地域の動植物に関心を持つ。
- ・山の植物が鹿の食害で減っていることに気づく。
- ・食害にあわない作物（エゴマ）を栽培する。
- ・芦安地域の伝統と伝承を知り、地域への誇りを持つ。

■ 企画内容



・地域探検…畑がネットで覆われているのはなぜだろう。学校園が猿の被害に。

・ヤマブキの挿し木…ヤマブキを挿し木して、お祭りの会場を花でいっぱい、地域にも配布。

・学校周辺のコケ観察…テラリウム作り、観察、コケとお友達に……。

・夜叉神峠登山…食害にあつて山が荒れていることを知ろう。

・櫛形山登山…フェンスの中はお花でいっぱい、でも外はまるで芝生のよう……

・食害学習会…環境省の人に来てもらい、地域の山の現状を教えてもらった。

・木の葉の工作…学校周辺の樹木の葉を利用して、昆虫の工作をおこなった。

- ・伝統食づくり…芦安の伝統食、キビ・アワ団子を作ろう。
- ・食害にあわない作物づくり…エゴマから地域の名産物をつくろう。
エゴマジュース、漬物、お茶

■ 実施期間 2020年5月～10月

■ 実施場所 南アルプス市芦安小学校 芦安地区 夜叉神峠 櫛形山

■ 企画の特徴

かつては芦安地区内にも、春になるとヤマブキの花が咲き乱れており、山の獣たちも里には決して下りてこなかったと聞いています。現在では、春の「やまぶき祭り」はありますが、いつの間にかヤマブキの花を見ることができなくなってしまいました。それは、どうしてでしょうか。また、ヤマブキを復活できないだろうか。

今年度、芦安小学校では鳥獣害をテーマに取り組んできました。コロナウイルスの関係で、北岳も入山禁止になってしまいました。山の獣たちは人間が入らないために、我が物顔で生活しています。里山から人里に降りてきては畑を荒らしたり、熊と人が遭遇したりすることが何件も起きました。このような山岳関係の事案が新聞やニュースでも報道されて、子どもたちの耳にもタイムリーに情報として入ってきました。学校園の近くにあるせぎにも子鹿が流されてもきました。子どもたちは、小学校で取り組んでいる鳥獣動物の被害が多く地域で起きていることを敏感に感じ取ってきました。

今回の様々な体験を通して、今まさに自分たちの身近にある田畑、野山が荒廃していることに気が付いてきました。しかし、このことは鳥獣動物のせいだけではないのです。ある意味、人間が自分たちの利己主義から行ってきたことのしっぺ返しなのかもしれません。登山教室に行った夜叉神峠や櫛形山の荒廃に驚き、フェンスを張ったり、鹿を駆除したりすることを一番に考えていた子どもたちが、しだいに自分たちも自然の一因だということに気づき、動植物との共存が大切だと感じるようになってきました。どのようにすれば、緑の山や田畑は守っていけるのだろう。これからどのようにすれば、本当の共存はできるのだろう。真剣に考え、自分たちにできることを少しでも実践していくことを身につけさせたいと思っています。

